

「全鍍連」 2022年 7月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 鈴木 信夫（千代田第一工業(株) 代表取締役社長）

「若洲ゴルフリンクス」での「邂逅」に思うこと」



私は、ゴルフは不得意なのですが、プレーする事は好きで、年に数回の機会を楽しみにしております。それは、勿論、スポーツそのものの楽しさもございますが、普段お話し出来ない方と一日一緒に過ごす事が出来る中で、素晴らしい瞬間に出会う事が有るからです。

ずいぶん前の話なのですが、コロナ禍前に、東京組合の支部対抗ゴルフコンペに出場した時の事。20年来可愛がって頂いている先輩と、ご一緒する機会を得ました。その会話の中で「鈴木君は、青年部で全国の会合にも参加しているよね？どんな会社の人と親しいの？」と、聞かれました。そこで以前、全国鍍金工業組合連合会（以下：全鍍連）「ビジョン策定委員会」でご一緒した大阪組合の友人の名前を出しました。すると先輩から「本当？今は交流がなくなったけど、親同士が親しくて、2家族で一緒に旅行に行ったことがあるよ。いつか、一緒に飲みに行こう！」と、言われました。聞けば、先輩の親御さん（故人）が、現在の会社を創業する前、友人の親御さんと同じ会社で修行されていたとの事。色々あって、各々が独立した後も交流があり、同時期に全鍍連の役員に名を連ねていたとか。早速、大阪の友人にも確認すると、間違いのないとのことでした。

これは、何かの縁なので、友人が日本鍍金協会の会合で、東京に来るタイミングに、私の兄を連れて、東京都が運営するゴルフ場「若洲リンクス」を一緒に楽しんだ次第です。何分、先輩とその友人は、数十年の月日が経っておりますので、昔話はほんのチョットで、現在の家族や仕事の話ばかりをしていたのですが、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ケネディー大統領も尊敬した日本人である上杉鷹山は、自らが初めて米沢藩に入るときに、その沿道の風景を見ながら絶望したと言います。その時、消えかかった「たき火」の奥にあった「残り火」を見つけ、息を吹いて大きな火とし、この繰り返しによって、藩を再生したいと語ったと伝えられています。つまり、大きな火を作るのが難しくても、小さな「心の灯火」が増えていけば、結果的に大きな火になると、考えたのです。

私は、組合活動もそれに近いのでは無いかと思います。例えば、全鍍連の「先輩経営者との意見交換会」はその代表的な企画ですし、女性部会もそうでしょう。なにより、埼玉県鍍金工業組合の青年部さんが当初企画し、そして、次回“京都”で開催予定の「未来を担う若手の集い」は、まさに、こう言った試みだと信じます。

親から子供に伝えられる火もあれば、仲間達同士や、新しい出会いによって灯される火もある。それは、企業活動もそうであるし、支部活動もそうでしょう。組合活動は、たしかに「面倒くさい」ことも沢山あります。敷居が高いことも否定はしませんが、お近くで開催の時は、顔を出して見るのも良いのでは無いでしょうか？きっと心に灯火を下さる誰かに出会え

とおもいます。「若洲リンクス」での経験は、まさに「灯火」が繋がった瞬間だと感じた次第です。出来る事は少ないですが、私も誰かの心に「灯せる」ように日々精進したいとおもいます。